

行政視察報告書

1. 委員会または会派等 広報広聴委員会 広聴部会
2. 視察期間 平成30年 2月 1日から平成30年 2月 2日までの 2日間
3. 視察先 広島県三次市 広島県呉市
4. 視察項目 (三次市) 議会報告・懇談会について (呉市) 議会報告・意見交換会について
5. 参加者 〔委員〕 徳永 春男、田中 正繁、平山 伸二、平嶋 慶二、 北岡 あや、城後 徳太郎 〔随員〕 谷川 秀和 〔同行〕
6. 考察 別紙のとおり 以上のとおり、報告いたします。 平成30年2月28日 報告者 <u>徳永春男</u> 大牟田市議会議長 殿

1. 広島県 三次市

人口 53,561人 世帯数 23,574世帯 面積 778.14km² 議員定数 24人
平成16年4月1日に1市4町3村が合併。

島根県と県境を接する中国地方の内陸中央部に位置し、山陽・山陰を結ぶ各国道、県道及びJR鉄道網などが市内で結節している。

【視察事項】三次市議会の議会報告・懇談会について

(1) 対象事業の概要

三次市議会の議会報告・懇談会は平成19年度から開催されており、これまでの10年間の経過や課題を整理するために従来型を一部見直し、地域の団体・サークル等に出かけテーマを設定しての意見交換を行う「出張型意見交換会」を主軸とした議会報告・懇談会が実施されている。

- ・各団体との（議会報告・意見交換会）
- ・高等学校の生徒の皆さんとの意見交換会
- ・従来型の議会報告・懇談会



(2) 報告の詳細

①議会報告・懇談会の当初の経緯等

議会運営委員会が担当委員となり、議会改革プランの実行と新たな議会活性化に向けた調査研究に取り組み、平成19年3月定例会で議会活性化等特別委員長報告の「議会活性化に関する6項目の提言」の中から、県内初の事例となる議会報告会を市内19会場で実施された。この議会報告会で聴取された内容は議会基本条例（案）に反映され、三次市議会基本条例を平成22年3月に制定されている。

議会の持つあらゆる情報を直接市民に発信すると同時に、市民の提言を議会から必要な施策として提案していくために、情報収集し政策提言につなげることを目的に開催。

②現状

議会報告・懇談会を、「市民参加型議会」を実現していく上での基本となる重要な機会と捉え、そこで得た成果は多様な民意を市政に反映できる「政策提案型議会」の実現へ連動するものとして開催されおり、平成29年度の開催にあっては「出張型意見交換会の推進」を方針とした実施計画書により実施されている。

【出張型意見交換会】

- ・各種団体の年間行事へ出張
- ・住民自治組織役員との意見交換
- ・常任委員会が所管する各種団体との意見交換
- ・高校生との意見交換

【従来型議会報告・懇談会】

- ・オープン型意見交換会
- ・各住民自治組織単位での意見交換会

議会報告・懇談会では、事前に広報広聴常任委員会が各住民自治組織に29年度の実施方針を説明し、開催方法を選択していただいている。

当日は、第1部 議会報告（30分）、第2部 ワークショップ（対話：30分、発表：20分、5～6人のグループに分かれ議員2名が司会と書記で入る）で構成。

参加者にアンケート調査を実施し、来年度の企画立案の参考としている。

29年度で出された意見等は、議員全員で共有すべき意見等が21項目、常任・特別委員会等で調査研究が必要と思われる意見が19項目。なお、各会場で出された市への要望は執行部へ伝達している。

ワークショップ形式は膝を突き合わせ話ができ好評。今後ワークショップ形式を充実したものにするため、講師を招き研修会を行っている。

高校生との意見交換は、発案し実施まで1年かかった。3月には翌年の学校スケジュールが決められるので、それ以前に学校との協議・調整が必要。また、担当の先生が新年度で異動する場合もある。

意見交換会は学校の要望に合わせた形式で開催され、生徒からは身の回りに関する意見だけでなくまちづくりについての意見も出されるなど、大変成果のあるものであり、今後も継続して実施していくとのこと。

三次市議会では、議会報告・懇談会の開催について、①実施計画の確認、②直前打ち合わせ、③実施後のまとめと今後の方針など、その都度全議員で確認されている。

（3）質疑応答

Q：ワークショップが行われたのはどの会場か。

A：CCプラザ、協働組合サングリーンの2カ所以外は全て行った。

その2カ所は場所柄（ショッピングセンター）を考慮しオープン型で行った。

Q：ワークショップで出た意見は、議会として最終的にどうするのか。

A：関係する常任委員会で協議していくことになる、途中経過は議会報にて知らせたいと思う、最終的には次年度の報告会で報告する予定である。

Q：同日に4カ所で行われている日があるが、どのようにされたのか。

A：市議会議員23名を4班に分けて、それぞれ4会場にて行なった。

Q：ワークショップのテーマはどうやって決めていくのか。

A：自治組織によりテーマは異なることがあるため、各自治会に投げかけてみる
が、出ないときはこれでいかがでしょうかと投げかける。

Q：高校生との意見交換会の中で驚いた点は何かあるか。

A：非常にしっかりした具体的意見をもっていることに驚いた。

Q：高校の意見交換会はどのように申し込まれたのか。

A：直接、高校の校長（担当教諭を含む）と協議し総合学習の時間に組み込んでいただいた。

Q：高校のスケジュールの都合上いつごろに申し込んだらいいのか。

A：遅くとも1月から2月の後半までには申し込みを終え、計画に入れていただいたら文書で残しておいてもらう。新年度に校長が変わる可能性があるため、申し送りをしてもらうようにしたほうがよい。

Q：市議会と生徒さんとの意見交換会の申し入れに対し、高校側はどういう印象だったでしょうか。

A：前向きに対応していただいた、すごく好意的であった。

（4）所感・感想

平成19年から議会報告・懇談会を始められ、これまでの10年間すごく議員の皆様がご努力されていることがうかがわれた、地域の老人クラブ、民生委員会、住民自治組織、女性団体、高校生との意見交換会、各種団体など広く広聴活動されている三次市議会のご努力には感動した。

また、リース型のA4型タブレットを平成29年度から導入され、ペーパーレス化にも取り組んであることや、市民との情報交換にもタブレットが役に立つことなどもご教示いただいた。本市での導入も検討課題の一つであると思われた。

本市議会においても、でき得ることは前向きに取り組むことが必要ではないかと感じた。

2. 広島県 呉市

人口 229,868人 世帯数 111,399世帯 面積 352.80km² 議員定数 32人
平成15年から平成17年にかけて、8町の合併により多くの島が呉市になる。
古くから軍港として発展し、現在も自衛隊の駐屯地がある。

【視察事項】議会報告・意見交換会について

（1）対象事項の概要

呉市議会では平成22年11月に議会基本条例実行委員会において市内2カ所で試行的に実施され、平成29年度で8回目となる議会報告会を実施されているが、参加人数の減少傾向が続く中、参加者との円滑な意見交換を進めるため、会場と参加人数に応じた車座形式の導入やファシリテーター役の設置など、建設的な意見交換が行える場の創出に努められている。

また、高校生に対して政治を自分のこととして捉え関心を持ってもらうため、高校を訪問し、高校生との意見交換会を実施されている。

次の項目について、呉市議会事務局より説明を受けた。

1. 呉市の議会報告会・意見交換会の概要
2. 取り組みの経緯や課題



(2) 報告の詳細

■ 呉市議会の議会報告会の流れ

平成22年に制定された議会基本条例（10条）に基づき議会報告会を実施しており、呉市議会では、各常任委員会ごとに班を構成し開催している。

開催までの流れは、議会に設置している政策研究会（副議長を委員長とし、各会派の政策責任者1名で構成）で報告会の運営方針を決定し報告資料の作成を行う。その後4つの常任委員会に送られ、各常任委員会で勉強会、発表練習を行い議会報告会に臨む。その後に各地区の報告書を作成し検証作業へと進む。

以前は地域を16カ所に分けて開催していたが、数年続けてさまざまな課題が出てきた。具体的には、参加人数の減少や同じ人しか来ないという参加者の固定化、地域の要望などが多くを占めるなど。広く、さらに若い人たちに参加してもらい建設的な意見交換の場となるような工夫を重ね、現在は以下の要領で行われている。

- ①議会報告会が、意見交換を重視するスタンスであることをイメージできるように、タイトルに「意見交換」という言葉を追加。
- ②車座や口の字形式の導入
- ③ファシリテーター役の設置（事前に、議員のファシリテーター研修を行う）。
- ④テーマ設定は、各常任委員会で現在議論している所管テーマとしている。所管性を生かしたテーマは、議員自ら勉強しているテーマのため、意見交換も深まり、委員会へ持ち帰り引き続きの活動に生かせる内容が多い。また、事前に地域からテーマを募集し、それについて意見交換を行う。
- ⑤深い意見の掘り起し・意見交換を行うために、各団体との意見交換会も開催している。平成28年度は、高校生・民生児童委員協議会・宅建協会・校長会・商工会・女性連合会・保育連盟・PTAなど。女性・若者に絞って実施した関係団体との意見交換会の開催は、新たな提案など参考になる意見が多く引き続き実施すべきと好評。
- ⑥報告時間を短縮し意見交換の時間を多くとる。開催時間も平日の午後・夜間・土曜日開催に加え、午前中も開催。
- ⑦報告内容は執行部の事業説明ではなく議会での議論・議会活動を中心とした内容とする。
- ⑧女性・若者に絞った実施。

議会報告・意見交換会で報告するテーマは、各常任委員会の所管テーマとして審議している重要案件。

呉市議会では、各常任委員会の任期2年間でテーマをいくつか設定し、1年または2年かけて調査・研究・視察・勉強会・討議を重ね、執行部への提言・政策提案や意見交換をされている。議員の調査・研究能力を担保するために議会図書館の充実も図られている。その積み重ねた実績を議会報告会で報告している。

例えば、総務委員会においての実績としては、職員採用年齢の34歳までの引き上げや社会人経験者枠の拡大など人事制度の改善、投票率の向上に向けた取り組み（議会として選挙公報紙の発行など）。

■若者との意見交換会

選挙権が18歳に引き下げられたことに伴い、若者に政治を身近に感じてもらうために高校での議会報告会を行ったところ、若者らしい素朴な視点からの活発な意見交換が行われた。高校にとっても生きた政治による主権者教育は議会ならではのものであり、一定の成果と実績が得られた。

まず、市立呉高校においては、「議会のしくみ」を説明し、その後、「地域の課題」「高校生としての意見」の意見交換。市内7校のうち6校をまわった。ただ、高校によっては生徒の問題意識も違うため、高校と話し合いながらテーマや形式を変えている。

例えば、地元就職する生徒が多い商業高校・工業高校においては、まず「議会とは」という説明をし、地域の課題や高校生としての意見を述べてもらい意見交換をしていくやり方。他方、進学などで呉市から出る生徒が多い進学校においては、生徒側に提案してもらい、それについて議員と意見交換するやり方。これらのやり方は、学校からの提案を受け、それに対して議会が注文どおりに開催している。

《開催までの流れ》

最初は、校長会に出向き提案し4校から手が挙がる。

各校の校長または教頭、担当教員との打ち合わせを2月中に行う。（翌年度の授業スケジュールが3月に決定してしまうため。）

※呉三津田高校における議会報告会

高校からのリクエストにより、同校が行う「社会探究プロジェクト」の一環として、高校側の意向を酌みながら実施。

「社会探究プロジェクト」とは、40歳になったとき、呉にどう貢献できるかというテーマで、自分の職業観に基づく将来像から課題を発見し、貢献をキーワードにふるさと呉に役立つことを想像し、解決に向けて研究を進めている。

前回は、生徒の発表を受け議員が質問するスタイルであったが、今年は議員が舞台上で説明し客席の高校生が質問するスタイル。

報告の概要は、議会広報紙を生徒全員に配布し、予算総体質問、新年度予算の

審査概要、委員会の活動状況（所管事務調査）など市政で課題になっていることを重点的に説明し、意見交換を行う。

（3）質疑応答

Q：議会報告会の開催に当たって、呉市議会の政策研究会の役割が非常に大きいのでは。ある程度の段取りや各団体との事前打ち合わせなどの役割が非常に重い。政策研究会はどのように運営しているのか。

A：報告会の方針や段取りを組んでいくので大変だが、副議長が委員長であり、各会派からの代表者で構成されており、議会としてのウエイトは重いと思う。ただ、テーマ設定は各常任委員会が決定・準備をしていく。

Q：各団体との意見交換会においては、その団体の要求・要望の意見になりがちなのではないか。

A：事前にテーマを決めて投げかけているので、そのテーマに沿った意見交換になる。確かに各団体の要望になることもある。例えば、観光ボランティアのみなさんとの意見交換会では、「ボランティア」では限界があるんじゃないかといった意見が出された。

Q：呉市議会では、各常任委員会が任期2年間で取り組む「所管テーマ」を決め調査・研究し執行部へ提言していく仕組みをとっているが、どういうことがテーマとして上がってくるのか。

A：例えば、文教委員会では「教職員の勤務実態」がテーマで上がった。そのなかで、実態を調べるために校長会で意見交換を行うなどがなされた。

Q：高校での意見交換について。生徒からの提案型でのやり方において、どういう発表・提案がなされ、どういうことが議員とやりとりされるのか。

A：発表内容は、例えば、ふるさと納税の活用や地域の医療、海・川をきれいにするためにカキの殻を使って浄化できないか、買い物する場所がない島民のために移動販売が実現できないか、というようなさまざまなテーマで調査・研究・発表がなされた。

移動販売については、生徒たちがスーパーに出かけ、どうしたら移動販売ができるのか聞き取りを行い、初期費用がネックになっていることの報告と、この初期費用を補助できないかと議員・議会・執行部に提案がなされた。

Q：議会報告会はいいことだとは思いますが、参加者からは「なぜ要望したことが実現しないのか」と怒られる。どうもなかなかやる気に結びつかないなどはないか。

A：一つ一つの要望・意見については、市役所の各部局に回答を求めフィードバックしているが、呉市でも「要望を聞きにきたわけではない」と議長が言うと、「じゃあ何しに来たんだ」と言われることもある。

Q：政策研究会の開催の頻度はどうか。この役割を担うためには頻繁に開催してい

るのか。

A：政策研究会は、主に決議・意見書の審査や取りまとめを行っているので、その審査で開催するときに合わせて議会報告会のことも議論する。月に数回ぐらい。

Q：各常任委員会での所管事務調査（所管テーマ）を採用した経緯と実績は。

A：当局からの一方的な説明を受け、これに意見を言えるのは議員質問のときだけ。これでは、二元代表制の議会の役割を果たせない。調査し、資料を出させ、そして政策提案に結びつけていくために採用した。各常任委員会で、各委員が調査したテーマの提案書を出し決定している。

実績としては、総務委員会：人事制度の変更（職員採用を34歳までに引き上げ）。投票率向上に向けた委員会発議による選挙公報条例の制定。

民生委員会：民生委員の負担を軽減するために民生委員の協力員制度を創設。子育て支援において子どもの医療費の補助の拡充。

Q：各常任委員会の所管事務調査は具体的にどのようなになされているか。

A：決定したテーマについて、1年または2年通して行う。視察を行い、討議し論点の振り返りを行う。

また、呉市の議会図書室には専属の司書がいる。調査や資料など情報量や知識を当局と同じレベルにもってくるためには大切。テーマごとに検索しやすいように、資料・書籍の分類方式はキーワードごとにされている。

毎月、特集コーナーを設けていて、IT特集、その他「子ども貧困」など。



Q：高校生の意見交換会で、高校生としての意見はどのようなことが上がったか。

A：駅前デパートの改善、通学路の街灯など。

Q：小学生に向けた取り組みはあるか。

A：小学6年生を対象に「教えて呉市議会！」を開催（議会運営委員会主催）。

模擬市議会を行い「秋休み条例」の採決を行った。今年は否決された。

Q：議会報告会の役割は、議会の仕組みや議会活動を知ってもらうと同時に市民の政治意識を高めていく役割があると思うが、その点においてどういう成果が上がっているか。

A：すぐ目に見えるものではないが、市長選において18歳の投票率は約50%だった。また、高校生との議会報告会のアンケートには、政治に興味がわいてきたなどの回答もあった。

なによりも「主権者教育」の重要性・役割を議員自身が意識してきた。

Q：ファシリテーターの採用について。ワークショップ形式でやっているのか。

A：必ずしもワークショップ形式にこだわっていない。参加した人たちが、意見を

言いやすい形式を模索している。

Q：地域の開催場所のローテーションは。

A：地域によっては4年に1回のところがあれば、毎年開催されている地域もある。各常任委員会でまわっていくが、地元議員が出席することも多い。

Q：高校での報告会のためのアプローチの仕方は。

A：まず、校長会に出向き手を挙げてもらった。

(4) 所感・感想

大牟田市議会における議会報告会も7年を迎え、参加者の固定化、参加人数が増加しない、意見がなかなか出にくいなど課題を抱え、市民意見を集約し市政に反映させるという議会の役割の面からはまだまだ十分とはいえない。どう広聴の役割を果たしていくか、さまざまな取り組みを行い試行錯誤し、改善を重ね、先進的な議会となっている呉市の取り組みを学ぶことは意義深い。

呉市議会は、いかに市民意見を広く・深く聞き取るかという視点で、形式も内容も充実させている。地域の市民意見交換会とともに、団体ごとの意見交換会を数多く行っていることは、そのテーマに沿った深い議論になりやすいこと。また、常任委員会ごとに所管ごとのテーマで行うため、議員自身も議論しやすく、それをまた委員会に持ち帰り引き続き、調査・研究、市当局への提言までもっていくことができる。議会報告会で報告する内容が充実する最大の要因が、各常任委員会の所管調査事項の仕組みにあると考える。それができるためには、議員の質とともに情報や知識量・議論する場の確保が重要。それを支える議会図書室の役割は非常に大きい。議員や委員会と話しをしながら、資料や論文・書籍を提供しレファレンスを行う司書の存在も大きい。

また、若い人たちの意見を聞くための、高校生に向けた議会報告会はユニークで有意義である。通り一遍の報告・説明ではなく、むしろ高校生の方から提案してもらい、それについて意見交換をしていくなど。当初は学校側も「学生は興味ないから意見は出ないだろう」と心配されていたようだが、実施してみると、率直な意見や斬新な提案などが出され、議会としても非常に力になっている様子。こういう取り組みの積み重ねにより、生徒自身が政治を身近に感じる機会となっている。

大牟田市議会において、すぐやれる取り組みとして研究・実践していきたい。